

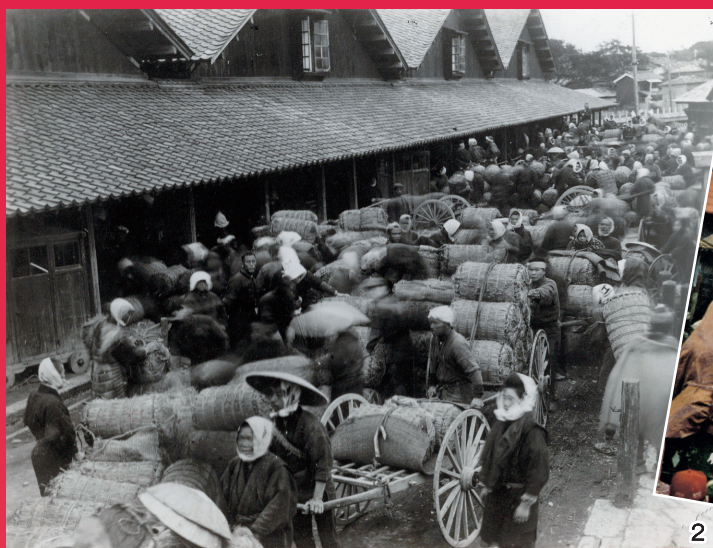


国史跡指定記念

山居倉庫は日本一



米都酒田を支えた米券倉庫



令和3年

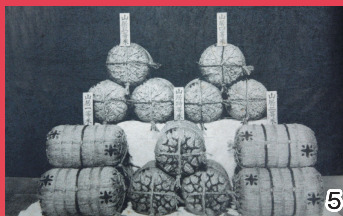
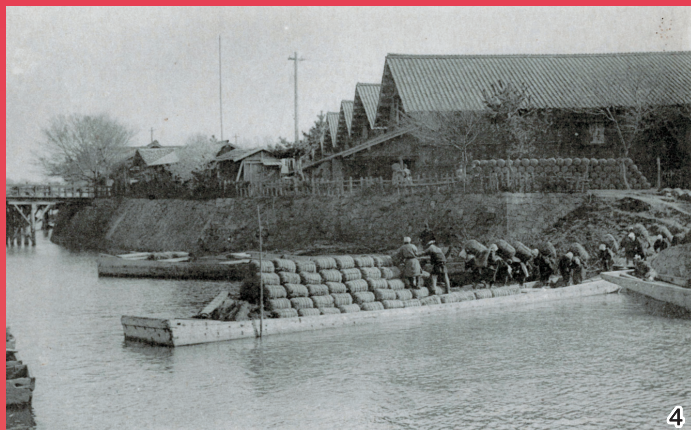
4.10(土)~6.21(月) 会期中無休

開館時間 午前9時~午後4時30分

入館料 一般200円、高校生90円、小中学生50円
(小中学生は土日無料)



★5月5日(こどもの日)、5月19・20・21日(酒田まつり)は無料★



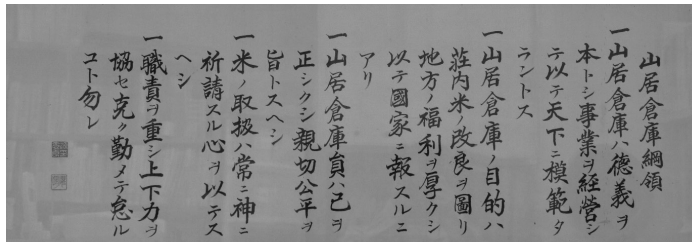
1. 三矢弘毅画「明治四十三年当時之山居倉庫実景」 J A全農山形蔵
2. 大正末期の入庫風景
3. 絵葉書「観光の酒田」昭和30年代
4. 絵葉書「酒田山居倉庫ト輸米ノ状況」大正頃
5. 等級別俵装 大正末期

酒田市立資料館





大正14年(1925)頃の山居倉庫全景【摂政宮殿下啓記念・株式会社酒田米穀取引所附属山居倉庫写真帖】より



▲山居倉庫綱領 JA全農山形蔵
創立以来、山居倉庫の経営を精神的に支え続けた。

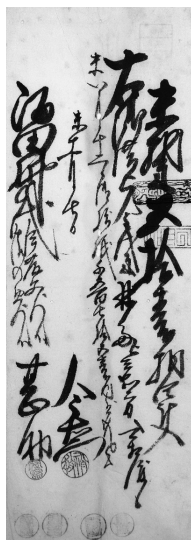
128年の歴史を持つ現役の米穀保管倉庫であり、酒田を代表する観光スポットとして知られる山居倉庫が、国の史跡に指定されました。

明治26年(1893)に株式会社酒田米穀取引所の附属倉庫として建設された山居倉庫は、入庫米に対して「米券」を発行した「米券倉庫」でした。戦前までの日本では、この米券を売買して米取引を行っていました。

米券制度が始まったのは藩政時代のこと。米の品質管理や検査を徹底した庄内藩の米札(米券)は高い信用を得て、米どころ庄内の名を全国に広めました。その技術と精神を受け継いだ山居倉庫の米券は、日本で最も有名な米券になり、日本銀行の指定倉庫になるまでに信用を高めました。

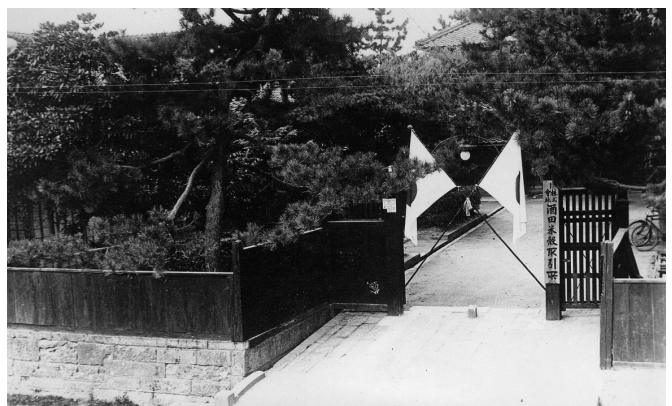
戦中戦後の食糧管理制度や農地改革により、山居倉庫は農業倉庫に変わりましたが、現在も設立当初の姿をとどめ、近現代の日本の米穀流通を知るうえで重要な倉庫と位置付けられています。

本企画展では、山居倉庫設立に至る歴史的背景を交えながら、米券倉庫時代の山居倉庫や当時の米穀取引に関する貴重な資料を紹介します。



▲酒田米穀取引所の倉荷證券(米券)／昭和JA全農山形蔵
山居倉庫の支庫であった遊佐倉庫の入庫米に対して発行された米券の見本。

◀藩政時代の米札(米券)



▲山居倉庫の母体であった株式会社酒田米穀取引所

催しのご案内

1. 山居倉庫調査解説

日時／5月22日(土) 午前10時～
(1時間程度、雨天決行)

会場／山居倉庫

講師／酒田市教育委員会社会教育文化課担当者

料金／無料 定員／20人

※詳しい内容についてはお問い合わせください。

2. 資料館調査員による展示解説

日時／5月8日(土) ①午前10時～ ②午後1時～
(各回1時間程度)

会場／酒田市立資料館1階企画展示室

料金／無料(入館料別途必要) 定員／各回10名

※駐車場に限りがありますので、申し込み時にお問い合わせください。

1、2とも4月10日から受け付けます。

☎ Tel 0234-24-6544

展示協力

全国農業協同組合連合会山形県本部(JA全農山形)、荒木照夫氏、加藤理一氏、上林英樹氏、酒田市立光丘文庫

